

呼吸器内科



呼吸器内科部長
八重柏 政宏

診療内容と実績

当院は3次救急病院であり、病院の立地する仙台市南部地域の拠点病院として機能しています。そのため、当科が担当している呼吸器領域においても救命救急が必要な入院患者が多いのが特徴です。

当科は病院機構上、内科部門の呼吸器内科として診療を行っています。内科部門には当科以外に腎臓内科・血液内科があり、相互に連携しながら診療に当たっているため、より幅広い内科診療を行っています。

当科の入院患者は急性の呼吸器疾患、重症喘息発作、COPD急性増悪、間質性肺疾患急性増悪、呼吸不全の増悪、重症肺炎などの症例が多くを占めています。重症の呼吸不全症例のICUにおける人工呼吸管理も積極的に進めているので、そうした症例の経験を豊富に積むことが出来ます。

気管支喘息・COPD症例は外来紹介が多く、検査・診断・外来加療を行い病態が安定した後に紹介元にお返しする方針で診療しています。こうした閉塞性肺疾患の外来診療経験を十分に持つことは呼吸器科医として重要です。またこれらの疾患の急性増悪症例も多く経験出来診療の中が広がります。

当科は間質性肺疾患症例も多く、外来での定期検査、抗線維化薬治療やステロイド・免疫抑制剤治療、診断目的の気管支鏡検査、急性増悪時のステロイドパルス療法等様々な検査・診断・治療に関与することで間質性肺疾患診療の経験が積めます。こうした患者様は、救急受診の急性増悪例以外に、連携している地域の開業医の先生方や検診再検例などの紹介症例が多いのが特徴です。

人口の高齢化に伴って増加している誤嚥性肺炎は個々の病院の枠では対応しきれない社会的な問題であり、退院後の受け入れ先である地域の療養型病院や在宅診療所、介護施設との連携をとりつつ診療を行っています。実際の診療の場ではNSTと共同で嚥下機能評価を行い栄養摂取の最適化を考慮しつつ再発予防を含めた治療方針を決定しています。呼吸器科診療では避けて通れない分野と考えています。

肺癌診療も積極的に行っており、病院の性格上進行肺癌の症例が多くを占めています。肺癌に対する化学療法・放射線療法を基礎として、免疫チェックポイント療法にも積極的に取り組んでいます。また、癌性胸膜炎に対する胸膜癒着術や麻酔科に依頼して緩和ケアにも取り組んでいます。肺癌の手術症例に関しては東北大学呼吸器外科・東北医科薬科大学呼吸器外科・宮城県がんセンター呼吸器外科をはじめとした施設に手術依頼しています。

プログラムの目的と特徴

本プログラムは、呼吸器内科のみならず内科系専門領域を志望する専攻医を対象としています。基礎的な内科診療をベースとした上で呼吸器内科診療の基本的な手技をマスターし、幅広く呼吸器疾患患者の診療し、呼吸器内科医として必要な修練を行います。

内科系診療は臓器専門性だけでは完結できないことが多いのは周知の事であり、本プログラムでは呼吸器内科の臨床修練を通じて、広く内科診療一般に通じる臨床経験を積む事を目標の一つとしています。また、カンファランスや学会発表を通じてより深く疾患を理解するように努めています。

なお、将来呼吸器内科を専門とすることを旨とする専攻医に関しては、内科認定医および内科専門医資格取得後、呼吸器内科専門医取得を容易とするよう研修内容を考慮しています。

研修内容と到達目標

■ローテートコース

- 1)呼吸器疾患の基礎的診断法・手技を取得する
 - ・X線写真の読影の基本を習得する
 - ・胸部CTの適応と読影の基本を習得する
 - ・生理検査を理解し結果の解釈ができる(動脈血液ガス分析、呼吸機能検査、6分間歩行検査)
 - ・呼吸器感染症の病態を理解し、喀痰検査・血液検査の解釈ができる
 - ・胸水検査を安全に行い結果を解釈できる
 - ・気管支鏡検査の基本手技をマスターする
- 2)診療チームに参加し、実際に呼吸器疾患における診断・治療を実践することで習得を目指す
 - ・症候や疾患に応じた検査計画、検査、その結果に基づいた治療方針を立て、実際に治療を行い治療効果の検証を行うことを実践出来ることを目指す
 - ・喘息およびCOPDのガイドラインを理解し、それに基づいた治療ができる
 - ・間質性肺炎の分類とガイドラインを理解し、治療計画を立てられる
 - ・人工呼吸器の基本的なモードと設定を理解し管理ができる
 - ・慢性呼吸不全をきたす疾患を理解し、病態・重症度に応じた対応ができる
 - ・免疫不全患者で起こる感染症に関する検査・治療法について理解し対応できる
 - ・肺癌の検査・診断・病期判定・治療について理解し対応できる
- 3)学会発表はより深い疾患の理解につながるため、積極的に内科学会・呼吸器学会地方会で発表する

■専攻コース

- 1)上記に加え、さらに高度なICUにおける呼吸管理や在宅酸素療法導入/患者指導など、より専門性の高い呼吸器診療の研修を行い、実際の診療を実践出来ることを目指す
- 2)通常の診療にとどまらず、積極的に学会発表・論文作成を行う態度を身につけることを目指す